

3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代

① 性別〔F1〕

回答者の性別は、「男性」が54.2%、「女性」が45.8%で、「男性」の方が多い。

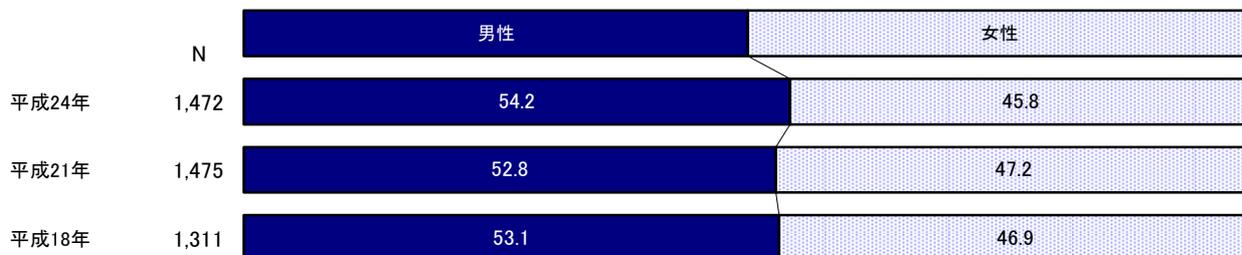
対象者属性別では、年代別でみると、30代～40代では男女はほぼ半々の比率であるが、年代が上がるにつれ「男性」比率が高くなり、70歳以上では「男性」が60%以上を占める。20代も「男性」が「女性」を上回っている。

投資信託保有状況別では、男女比に大きな差はみられない。

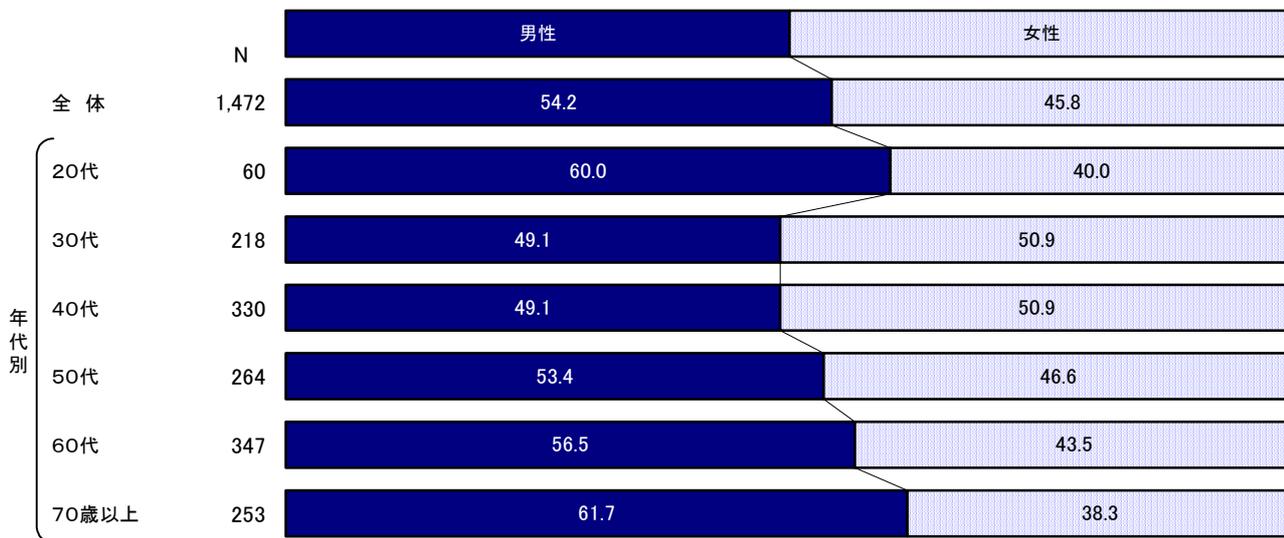
投資信託保有種別(現在保有層)では、公社債投資信託のみ保有層は他の層と異なり、「男性」より「女性」の比率がやや高い。

居住地別では、首都圏以外のその他の関東では「男性」比率が他の地域よりやや高い。

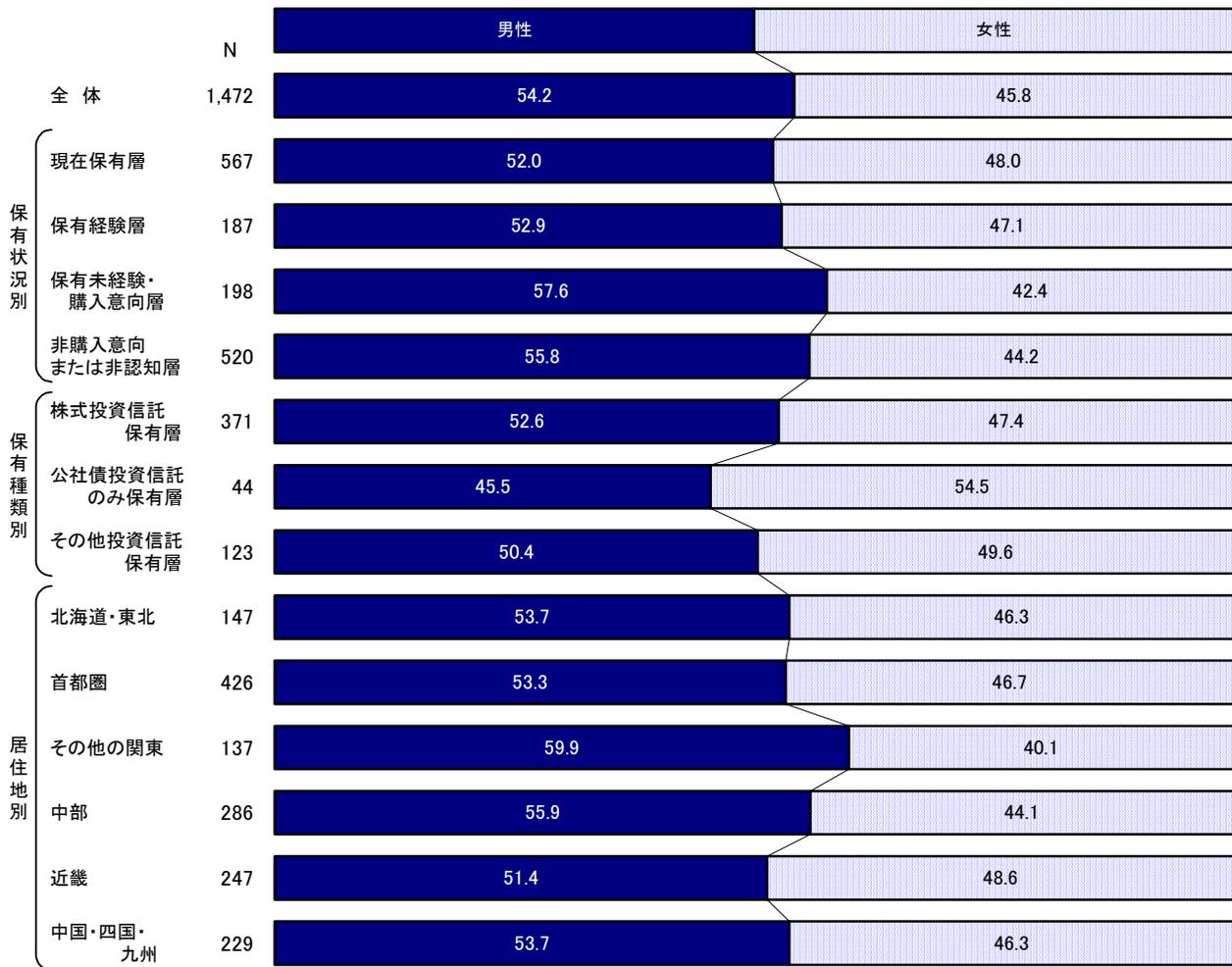
【性別(単数回答)／時系列】



【性別(単数回答)／基本軸1】



【性別(単数回答)／基本軸2】



② 年代〔F2〕

回答者の年代は、「60代」(23.6%)と「40代」(22.4%)がともに20%以上を占め、多い。「30代」、「50代」、「70歳以上」はともに15%前後であるが、「20代」は4.1%と少ない。年代を3区分にまとめてみると、『60代以上』と『40～50代』はともに約40%を占めるが、『30代以下』は20%に満たない。

時系列でみると、『60代以上』の高年齢層比率は増加傾向で、特に「70歳以上」の比率は5.3ポイント増加した。時系列でみると、『30代以下』の若年層比率は減少傾向がみられ、平均年齢も高くなってきている。

対象者属性別では、性別でみると、『60代以上』の比率は男性(44.1%)の方が女性(36.8%)より高い。

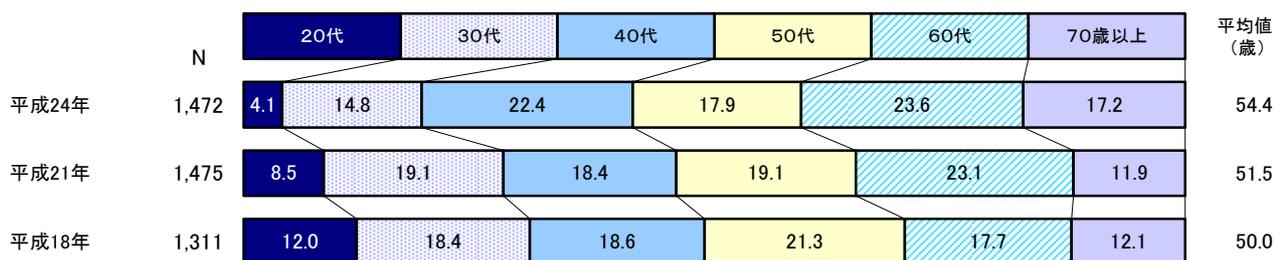
投資信託保有状況別では、現在保有層と保有経験層は『60代以上』が50%以上を占め、平均年齢も60歳前後と高い。一方、保有未経験・購入意向層(投資信託保有経験はないが、これまで購入したいと思ったことがある者)と非購入意向または非認知層(投資信託保有経験がなく、これまで購入したいと思ったこともない者または認知していない者)では『60代以上』は30%に満たず、平均年齢も50歳前後と低い。

投資信託保有種類別では、大きな差はみられない。

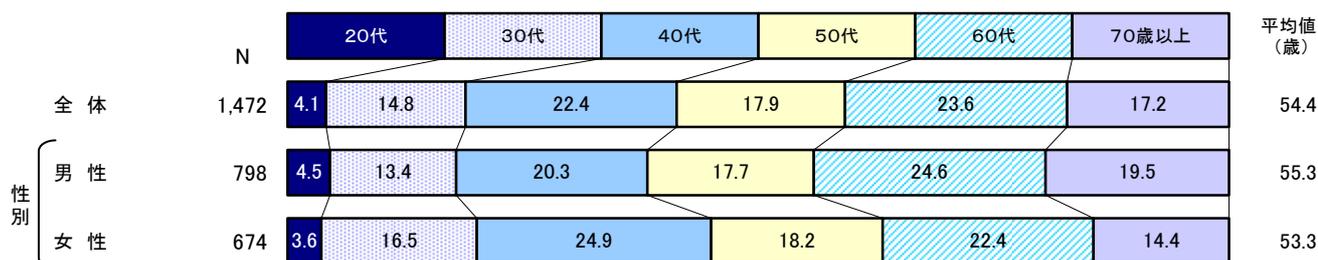
居住地別にみても、年代を3区分した比率に大きな差はみられない。

なお、投資信託保有状況を年代別でみると、「現在保有層」比率は、20代では20%に満たないが、年代が上がるにつれて高くなり、60代と70歳以上では半数が投資信託を現在保有している。「保有経験層」比率も20～30代では5%前後と低いが、40～60代では10%台に上がり、70歳以上では20%を超える。一方、「保有未経験・購入意向層」比率は60代以上では10%以下にとどまるが、20～30代の若年層では25%前後と高く、若年層ほど購入意向が高い。

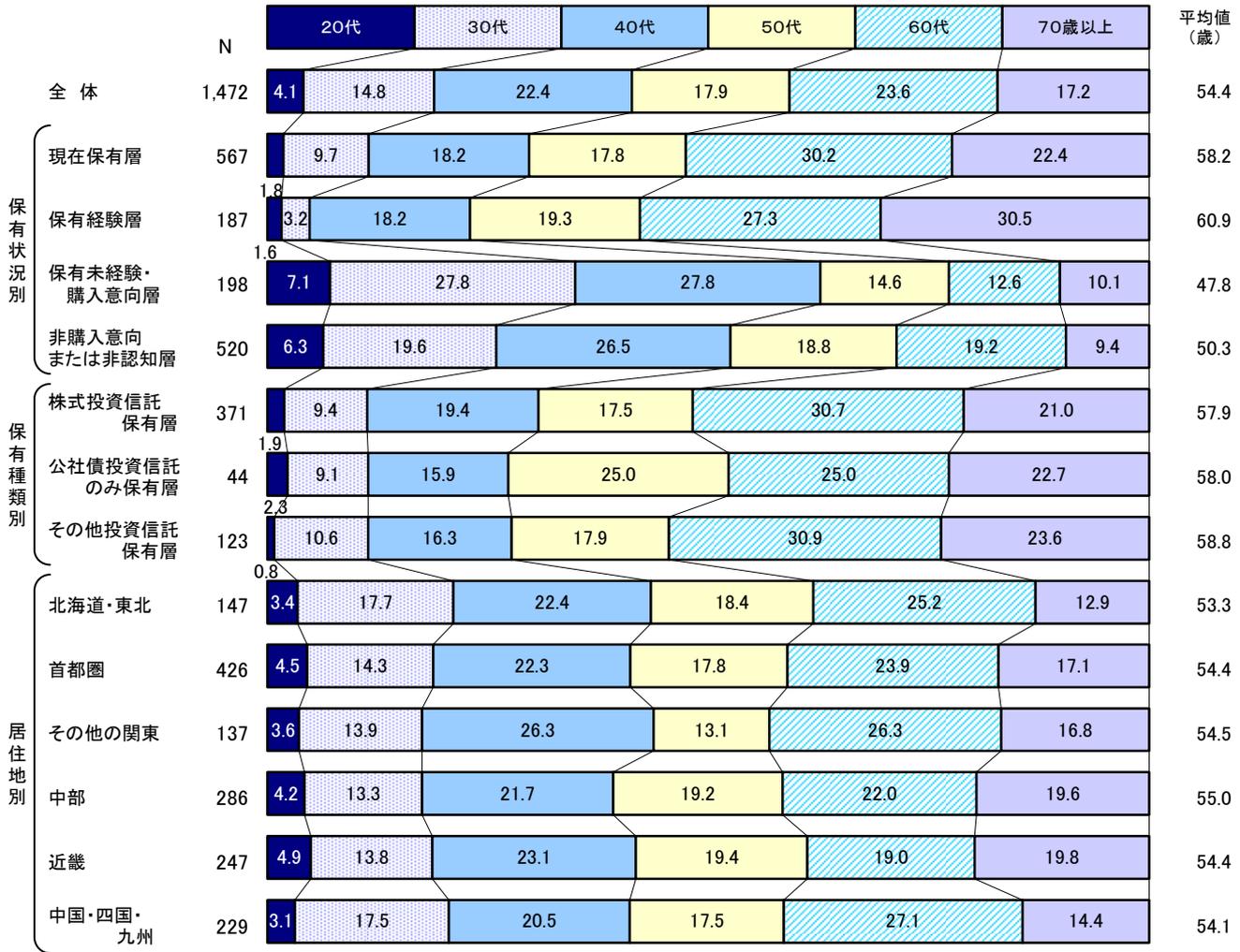
【年代(単数回答)／時系列】



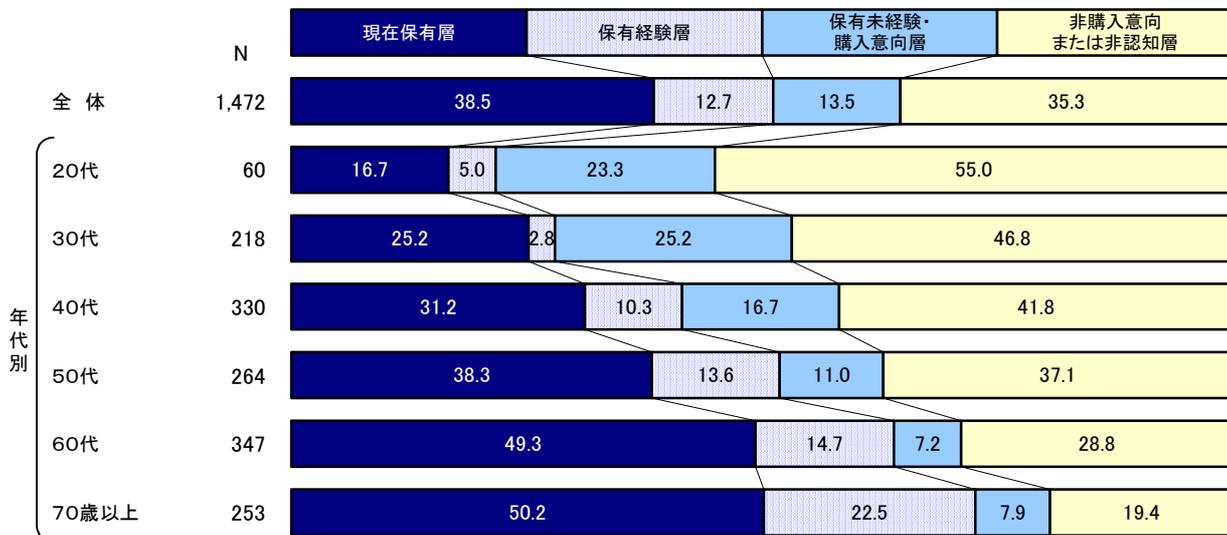
【年代(単数回答)／基本軸1】



【年代(単数回答)／基本軸2】



【投資信託の保有状況別・基本軸2(単数回答)／年代】



(2) 職業〔F3〕

回答者の職業は、「無職・その他」が42.2%で最も多くを占めている。次いで、「自営商・サービス業」が15.8%、「事務系の勤め人」が14.5%と比較的多く、「技術系の勤め人」は9.0%、「管理職・役員」は8.1%の順である。

時系列では、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、男性は68.9%が有職者であるが、女性は「無職・その他」が57.6%と過半数を占める。

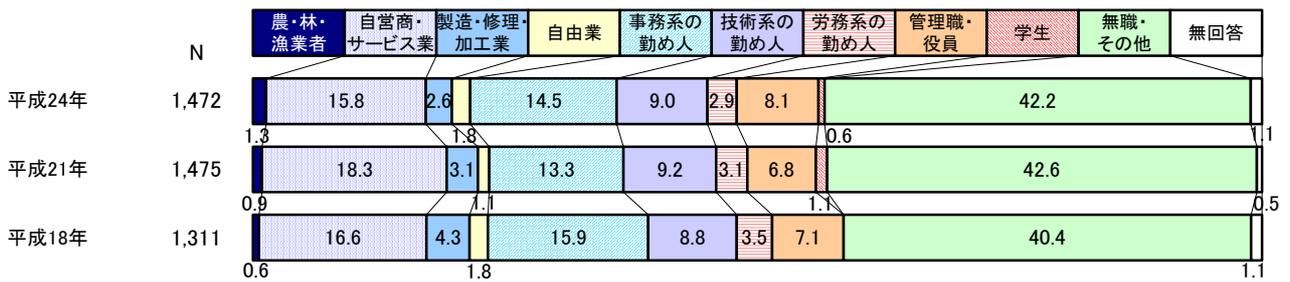
年代別では、「無職・その他」は70歳以上で83.8%、60代も57.9%と多いが、50代以下では30%を下回る。

投資信託保有状況別では、現在保有層、保有経験層ともに「無職・その他」がほぼ半数を占めている。一方、保有未経験・購入意向層と非購入意向または非認知層はともに「無職・その他」は30%前後に過ぎず、有職者率が60%台と高い。

投資信託保有種類別では、大きな差はみられない。

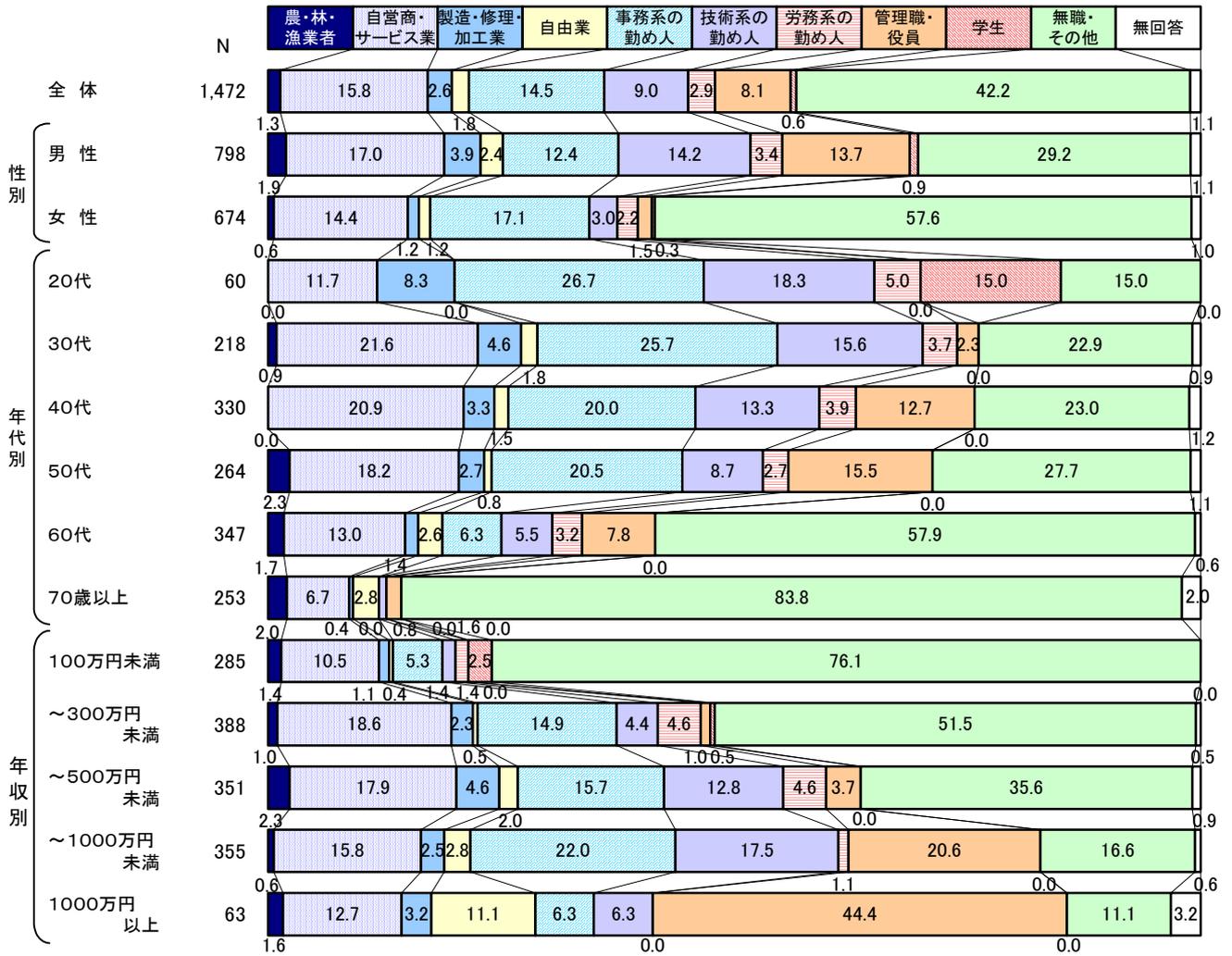
居住地別では、首都圏以外のその他の関東は他の地域に比べ、「自営商・サービス業」比率がやや低い。

【職業(単数回答)／時系列】

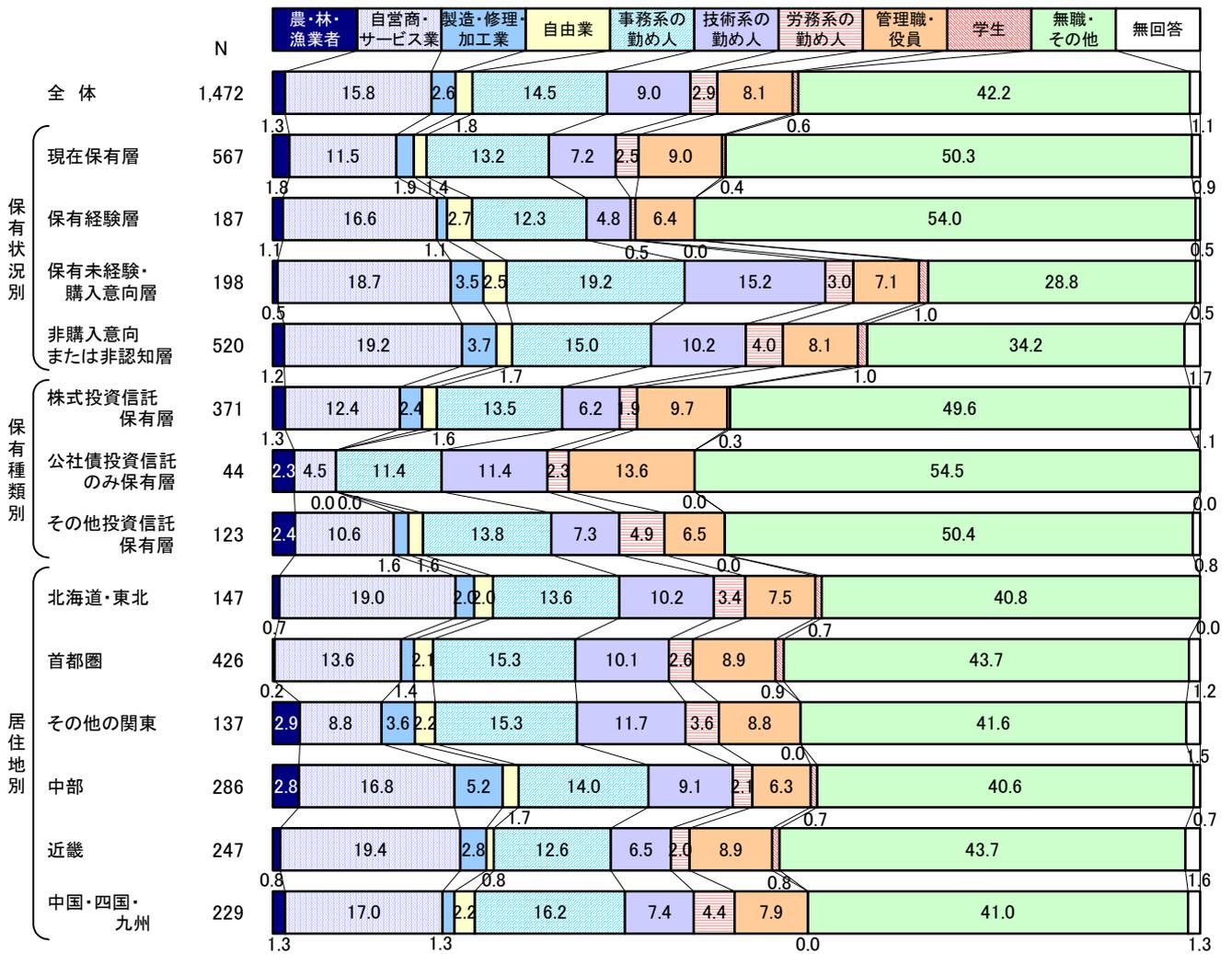


*平成18年調査では「学生」の選択肢がない点に注意が必要

【職業(単数回答)／基本軸1】



【職業(単数回答)／基本軸2】



(3) 投資信託の保有状況〔問2〕

回答者の投資信託の保有状況は、「現在持っている」という“現在保有層”が38.5%、「以前持っていたが現在は持っていない」という“保有経験層”が12.7%、「今まで持ったことがない」という“保有未経験層”が46.0%を占めている。『投資信託』という「言葉も知らなかった」のは0.3%のみ。

時系列で見ると、「現在持っている」比率に上昇傾向がみられ、平成18年の調査結果に比べ9.4ポイント高くなっている。

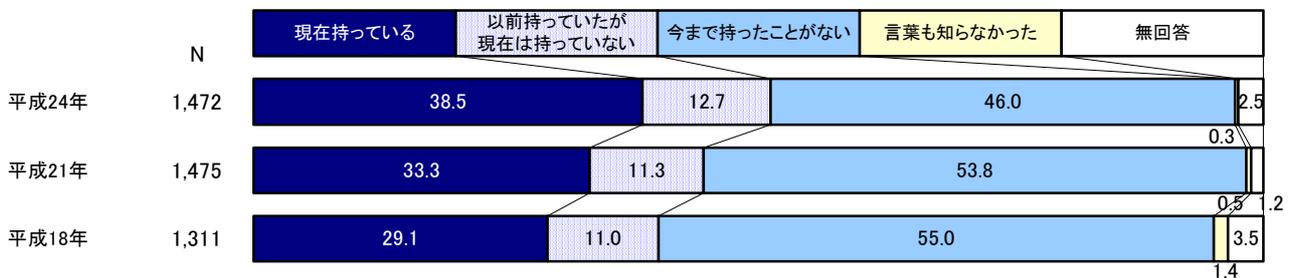
対象者属性別では、性別でも保有状況に大きな差はみられない。

年代別では、「現在持っている」は年代が上がるほど高くなり、20代では20%に満たないが、60代と70歳以上では50%前後と高い。「以前持っていたが現在は持っていない」も年代が上がるほどほぼ増加し、70歳以上では22.5%を占める。一方、「今まで持ったことがない」は20～30代では約70%を占めるが、70歳以上では25.7%に過ぎない。

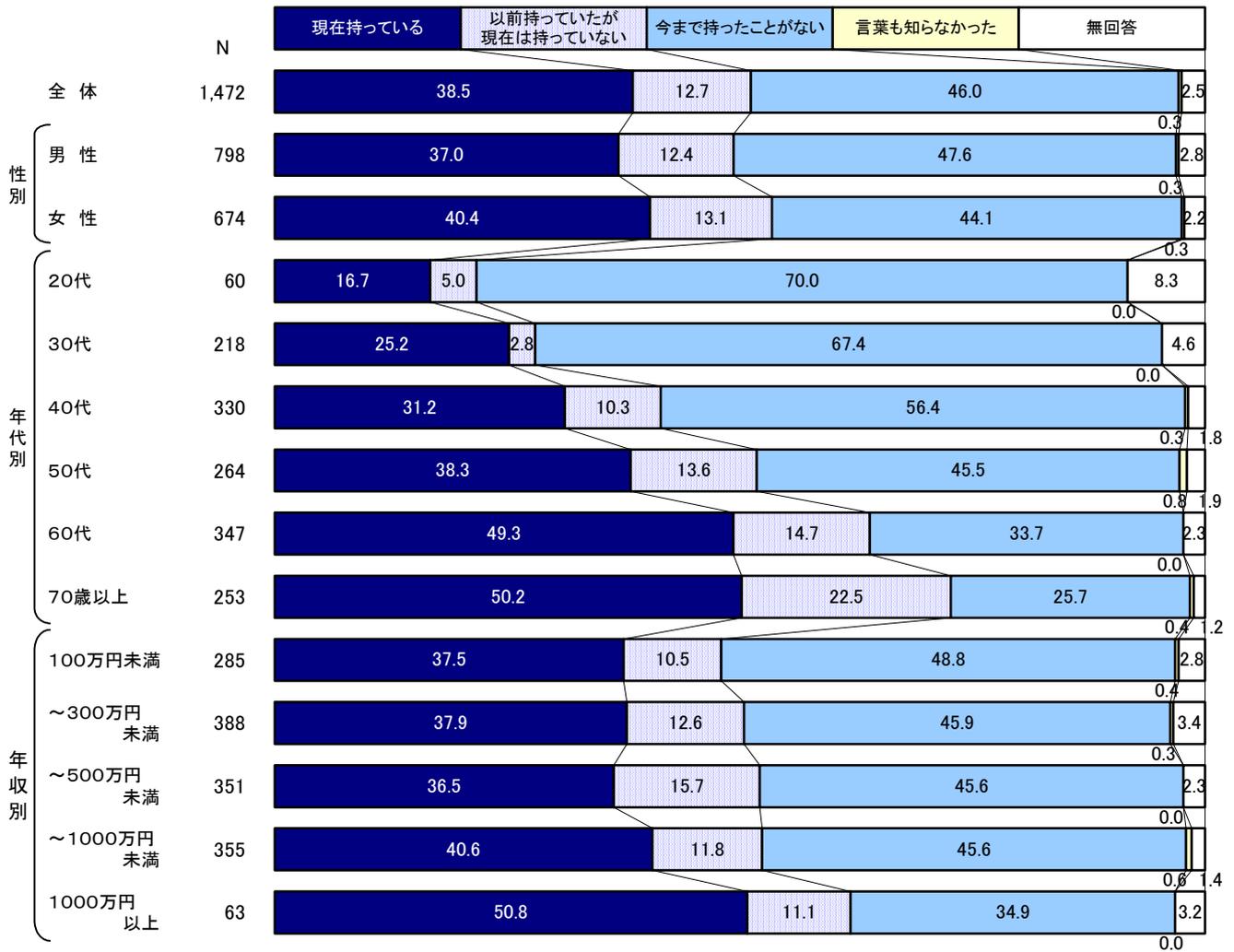
年収別では、「現在持っている」比率は「～1000万円未満」の層では大きな差はみられないが、「1000万円以上」の層では50.8%と高い。「以前持っていたが現在は持っていない」比率には大きな差はみられない。

居住地別では、首都圏以外のその他の関東は他の地域に比べ「現在持っている」比率がやや高く、「今まで持ったことがない」比率はやや低い。

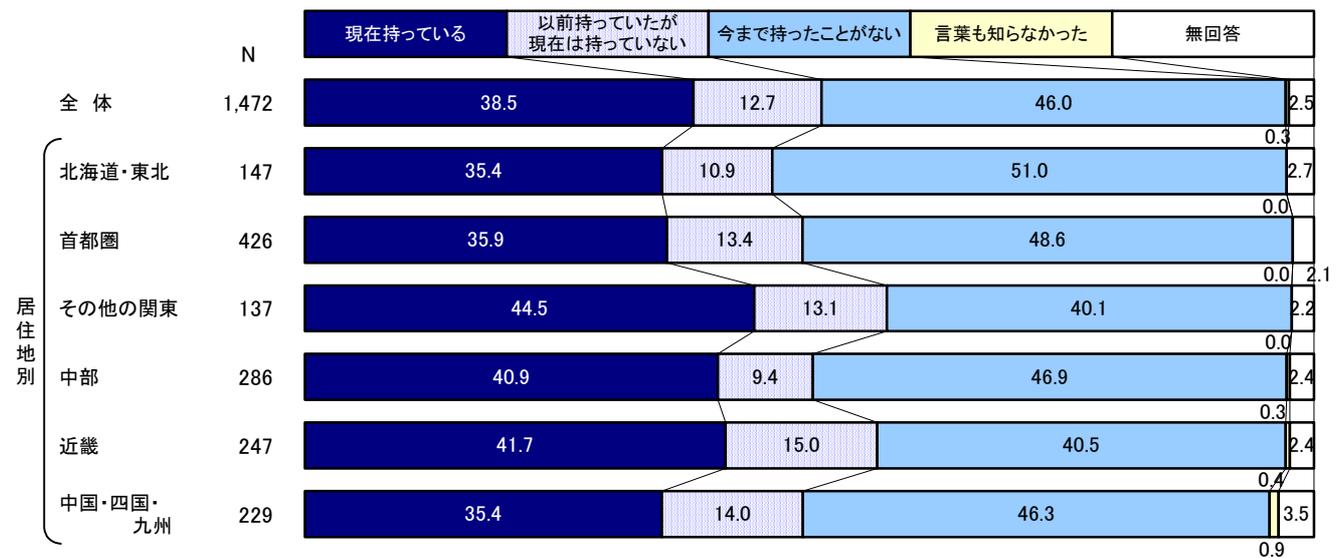
【投資信託の保有状況(単数回答)／時系列】



【投資信託の保有状況(単数回答)／基本軸1】



【投資信託の保有状況(単数回答)／基本軸2】



(4) 保有貯蓄総額【問 27】

回答者の現在の保有貯蓄総額（金融商品の総額）は、「～300 万円未満」が 18.2%で最も多い。まとめてみると、『500 万円未満』が 46.6%と半数近くを占め、『1500 万円以上』の高額保有層は 20.4%である。平均額を算出すると、896.8 万円である。

時系列でみると、「100 万円未満」の比率には減少傾向がみられるが、他の比率には大きな変化はみられない。ただし、平均保有額は平成 21 年調査結果（812.2 万円）を大きく上回っている。

対象者属性別では、性別でみると、平均貯蓄保有額は男性（946.5 万円）の方が女性（838.4 万円）より高い。

年代別では、年代が上がるにつれ平均保有額が高くなる傾向がみられ、70 歳以上では 1300.2 万円にのぼる。最も低い 20 代では「100 万円未満」がほぼ半数（51.7%）を占め、平均は 200.0 万円に過ぎない。

年収別では、年収が上がるにつれ平均貯蓄保有額が高くなる傾向がみられ、年収が「～1000 万円以上」では平均が 1748.4 万円と特に高い。また、年収が「100 万円未満」の層でも平均 642.3 万円の貯蓄を保有している。

投資信託保有状況別では、現在保有層が平均 1198.3 万円と最も高く、保有経験層でも 1000 万円を超えている。一方、保有未経験層では購入意向層・非購入意向または非認知層ともに平均は 600 万円前後に過ぎない。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層が平均 1269.6 万円であり、他 2 層（ともに約 1000 万円）を上回っている。

居住地別では、北海道・東北では平均 710.8 万円と最も低く、近畿も 825.3 万円やや低い。最も高いのは中部の 970.5 万円である。

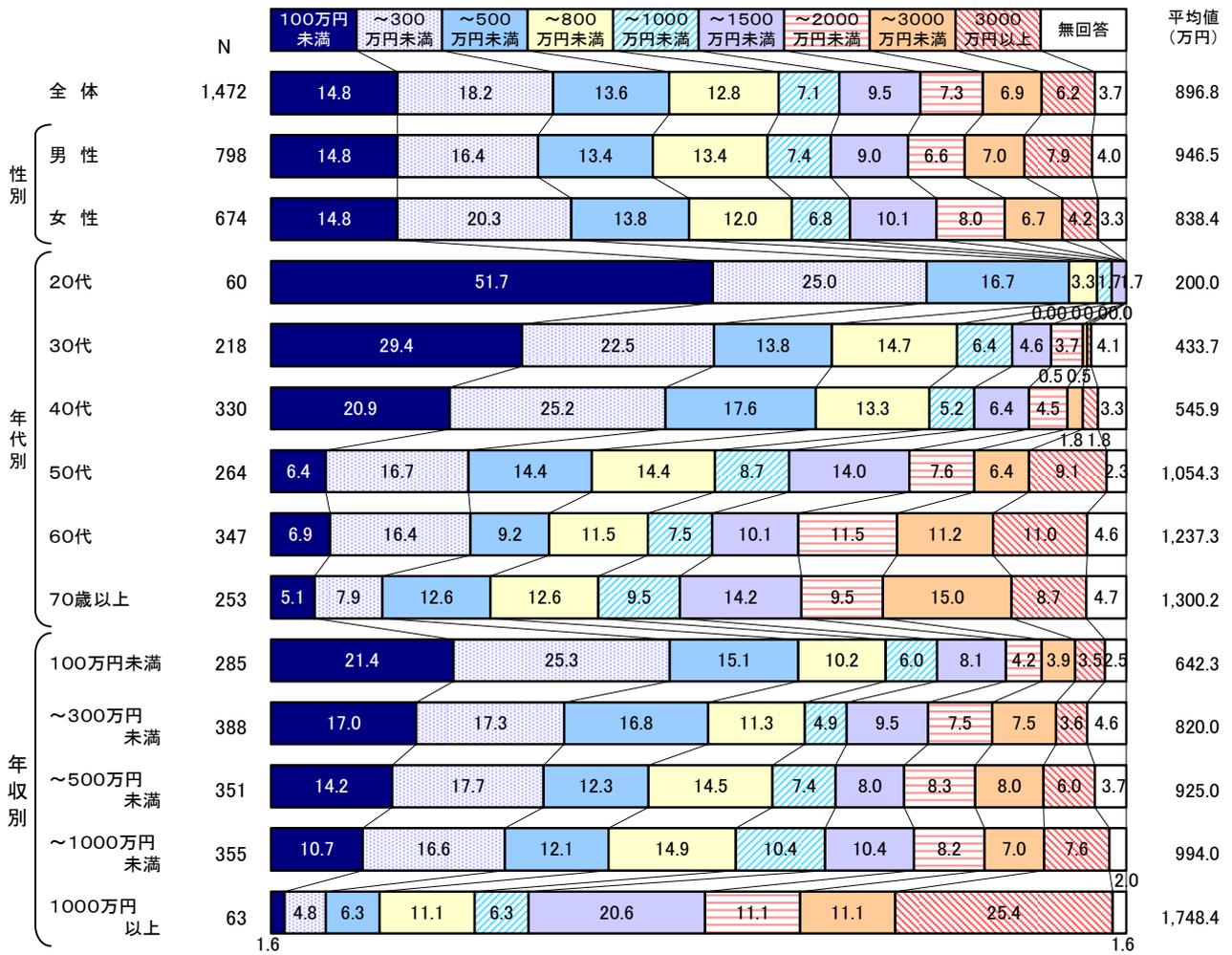
【保有貯蓄総額(単数回答)／時系列】

	N	100万円未満	～300万円未満	～500万円未満	～800万円未満	～1000万円未満	～1500万円未満	～2000万円未満	～3000万円未満	3000万円以上	無回答	平均値(万円)
平成24年	1,472	14.8	18.2	13.6	12.8	7.1	9.5	7.3	6.9	6.2	3.7	896.8
平成21年	1,475	17.8	20.1	13.5	12.2	8.1	7.5	5.7	6.0	6.1	3.1	812.2
平成18年	1,311	19.8	17.6	12.7	18.4	8.9	5.5	4.2	7.6	5.3		833.7

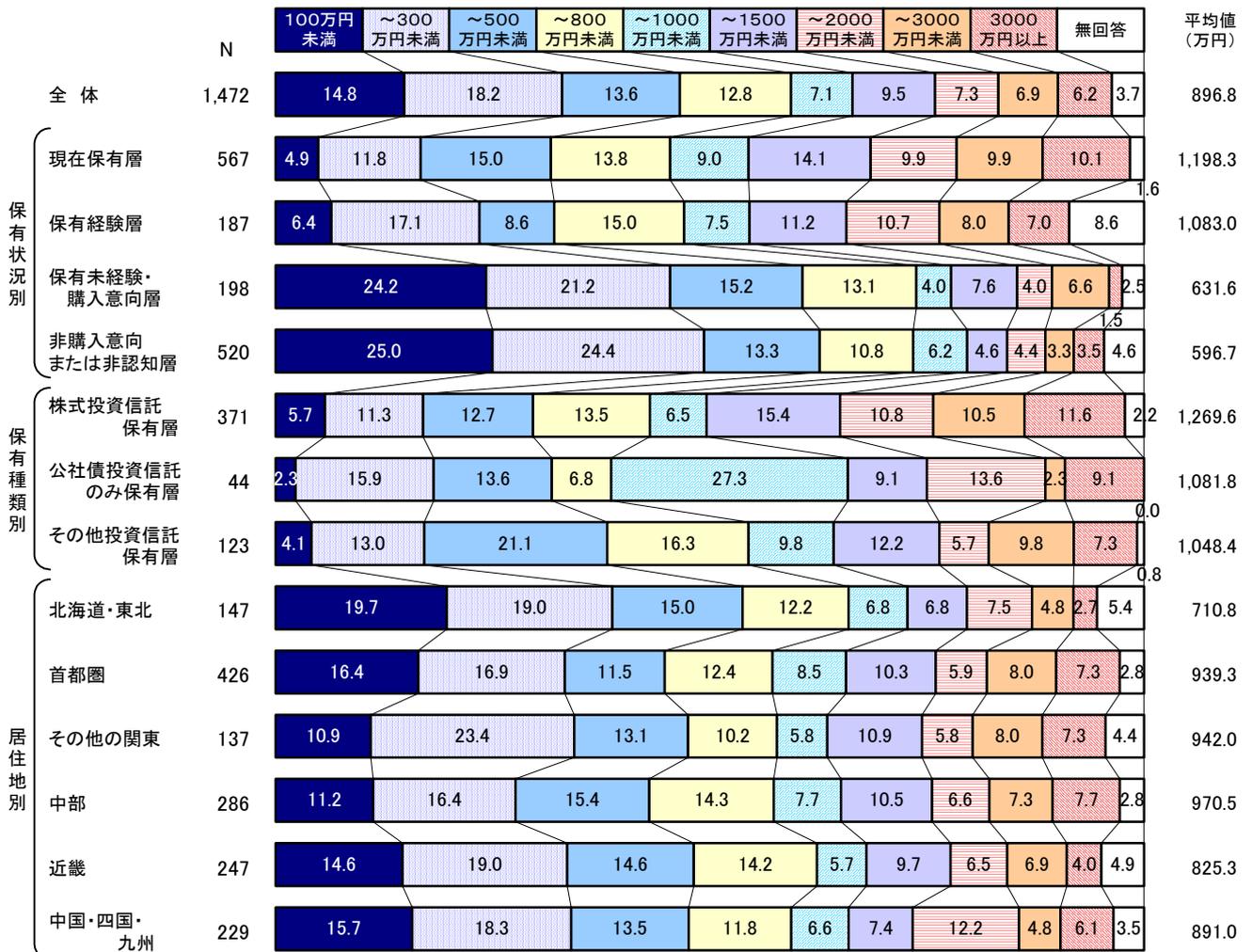
*平成 21 年より選択肢が細分化されている点に注意が必要

「～1000 万円未満」→「～800 万円未満」、「～1000 万円未満」

【保有貯蓄総額(単数回答)／基本軸1】



【保有貯蓄総額(単数回答)／基本軸2】



(5) 年収〔F5〕

回答者の年収は、「～100万円未満」が19.4%、「～300万円未満」が26.4%、「～500万円未満」が23.8%と比較的高く、まとめると『500万円未満』が約70%を占める。平均を算出すると、394.6万円である。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別で見ると、男性は平均531.8万円であるが、女性は「100万円未満」が38.6%を占め、平均は229.3万円と低い。

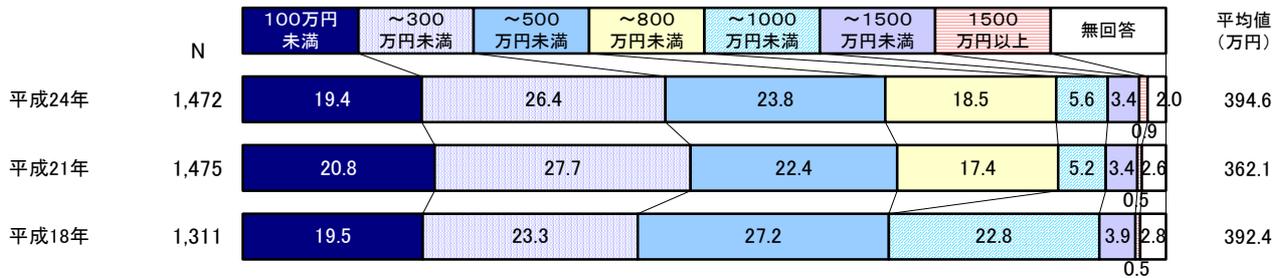
年代別にみると、「100万円未満」の比率は年代が上がるにつれ低くなる傾向がみられる。一方、『500万円以上』の比率は20代～50代にかけて上がり続けるものの、60代以上では大きく低下している。このため、平均額も20代の252.5万円から次第に高くなり、50代の495.7万円が最も高いが、60代以上では350万円前後に下がる。

投資信託保有状況別では、大きな差はみられないものの、現在保有層と保有経験層では400万円を上回るのに対し、保有未経験・購入意向層、非購入意向または非認知層ともに380万円前後とやや低い。

投資信託保有種類別では、平均は株式投資信託保有層が440.1万円でも最も高く、他2層を上回る。また、公社債投資信託のみ保有層は、「100万円未満」の比率が34.1%と他2層より高い。

居住地別では、平均は首都圏が433.7万円でも最も高く、その他の関東も400万円を越えて比較的高い。一方、北海道・東北と中国・四国・九州は平均が360万円前後とやや低い。

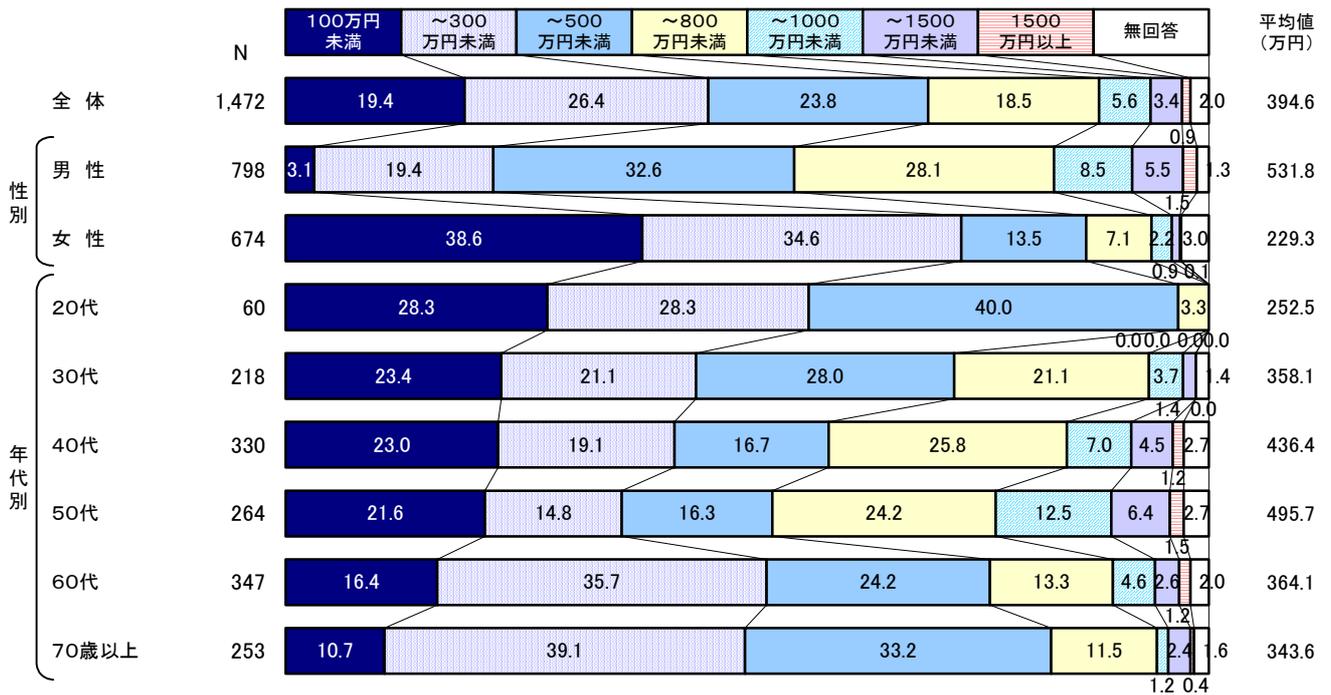
【年収(単数回答)／時系列】



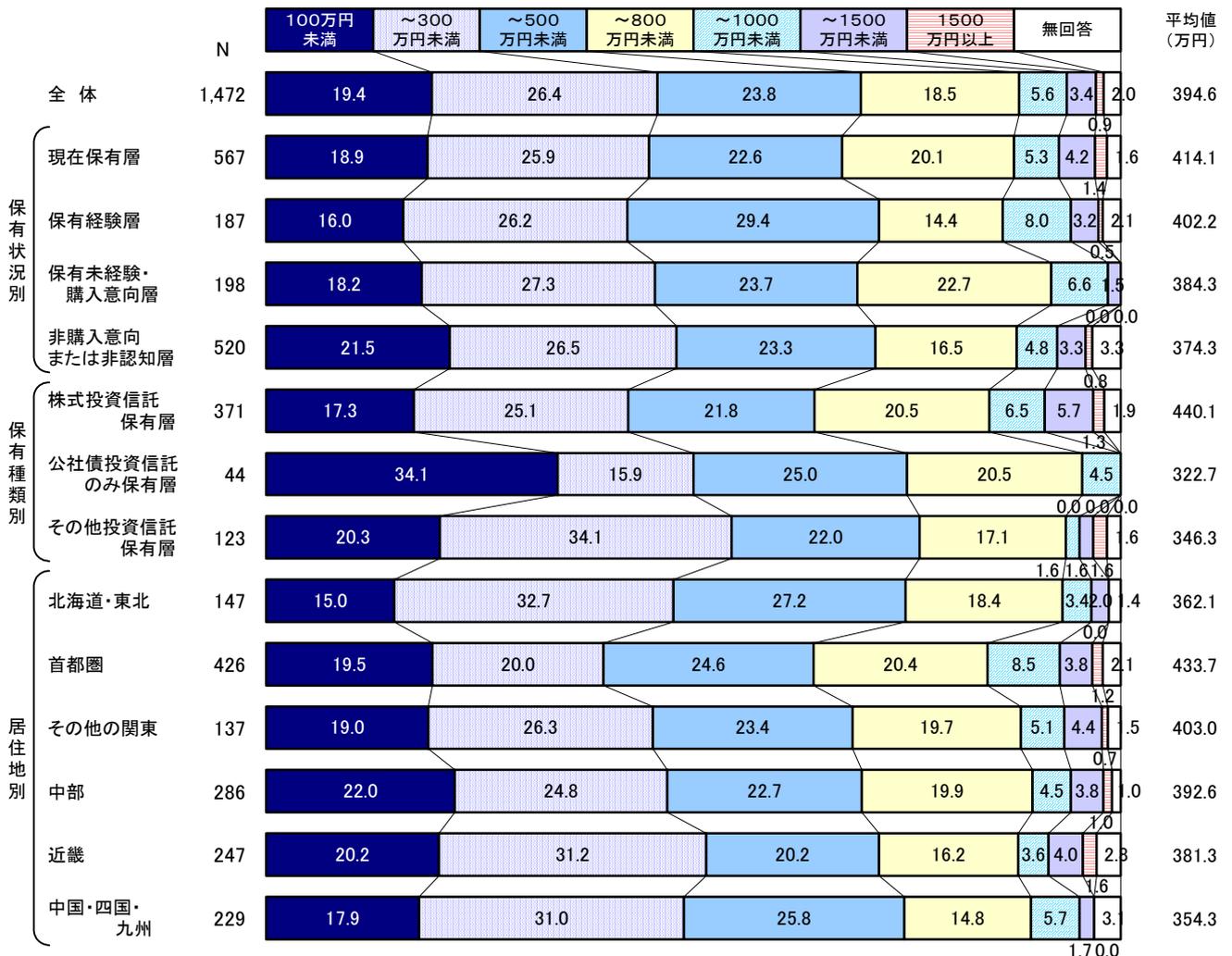
*平成21年より選択肢が細分化されている点に注意が必要

「～1000万円未満」→「～800万円未満」、「～1000万円未満」

【年収(単数回答)／基本軸1】



【年収(単数回答)／基本軸2】



(6) 収入源〔F4〕

回答者の収入源(重複回答)は、「給与所得」が 57.7%で最も高く、次いで「恩給・年金」が 35.5%、「利子・配当」が 24.9%の順に高い。

時系列でみると、「恩給・年金」比率が高くなってきており、平成 18 年調査結果に比べ 8.2 ポイント高くなっている。

対象者属性別では、性別でみると、男性・女性ともに「給与所得」、「恩給・年金」、「利子・配当」の順に高いが、女性は「その他」が高いのが特徴的である。

年代別では、20 代～50 代はいずれも「給与所得」が 70%以上で最も高い収入源となっているが、60 代以上ではこれが大きく低下し、代わりに「恩給・年金」が 80～90%台と高くなる。「利子・配当」は年代が上がるにつれてわずかずつ高くなる傾向がみられ、70 歳以上では 33.2%にのぼる。

投資信託保有状況別では、現在保有層と保有経験層は保有未経験の 2 つの層に比べ「給与所得」は低いが、「恩給・年金」が高い。また、現在保有層では「利子・配当」も 39.5%と他の層に比べ高い。

投資信託保有種類別では、大きな差はみられない。

居住地別でも、大きな差はみられないが、「給与所得」は北海道・東北ではやや高いが、近畿ではやや低い。また、「利子・配当」は北海道・東北ではやや低く、その他の関東ではやや高い。

なお、主な収入源(単数回答)をみると、「給与所得」が 50.8%、「恩給・年金」が 25.8%となっており、この 2 つで 4 分の 3 を占めている。

時系列でみると、「給与所得」には減少傾向が、「恩給・年金」には増加傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、「給与所得」は男性 (53.9%) の方が女性 (47.2%) より高いが、「その他」は女性 (13.2%) の方が男性 (1.4%) より高い。

年代別では、50 代以下では「給与所得」が過半数を占めるが、60 代、70 歳以上では「恩給・年金」が多数派となる。

主な収入源別に年収をみると、給与所得や事業所得では『800 万円未満』が約 85%と大半を占めるが、恩給・年金では「～800 万円未満」より高い層は少なく、『500 万円未満』で 90.4%を占める。

投資信託保有状況別では、現在保有層と保有経験層は「給与所得」と「恩給・年金」が同程度で並ぶが、保有未経験の 2 つの層では「給与所得」が中心となっている。

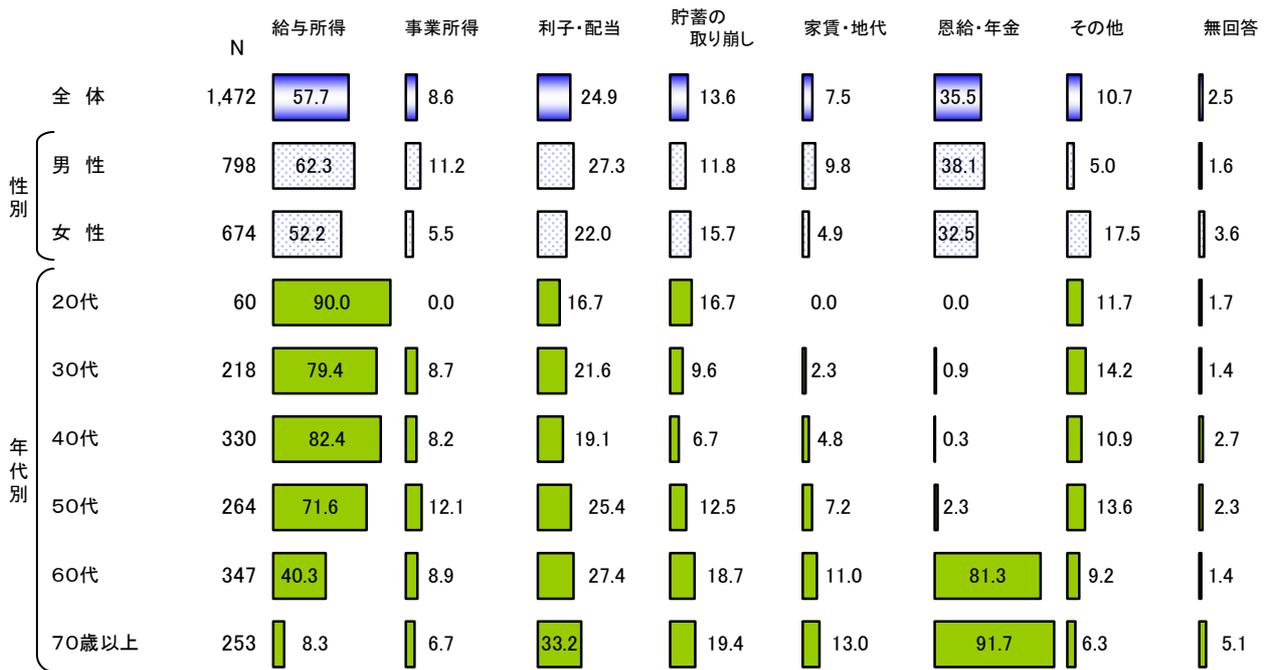
投資信託保有種類別では、大きな差はみられない。

居住地別では、「給与所得」の比率は北海道・東北でやや高く、近畿ではやや低い。

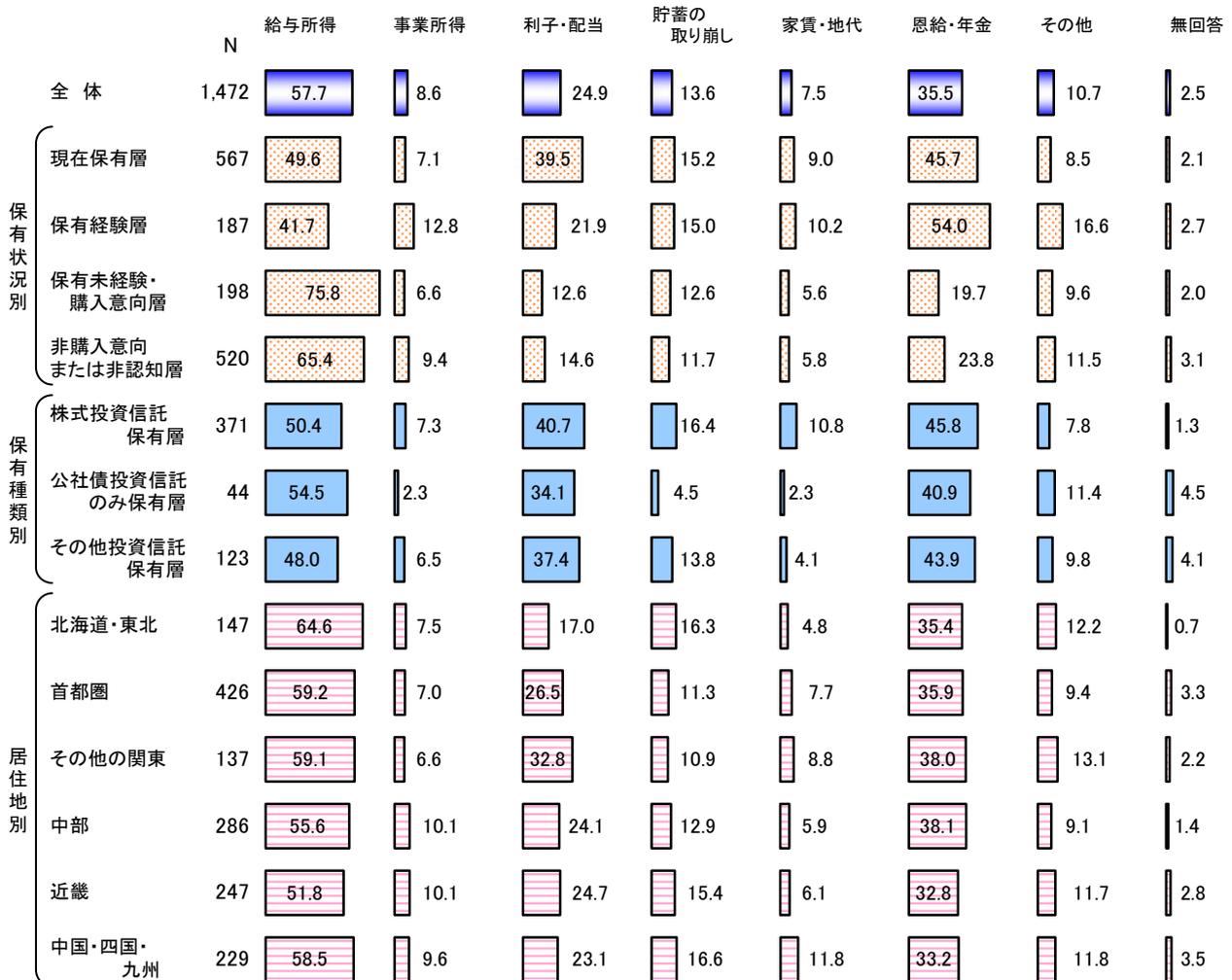
【収入源(重複回答)／時系列】



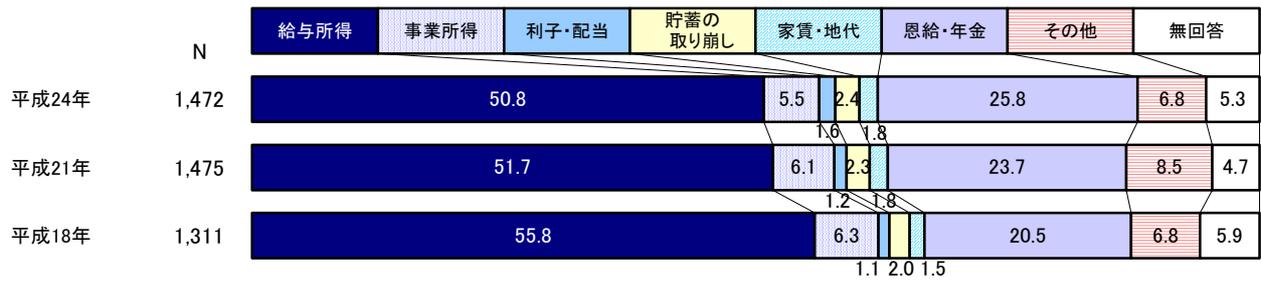
【収入源(重複回答)／基本軸1】



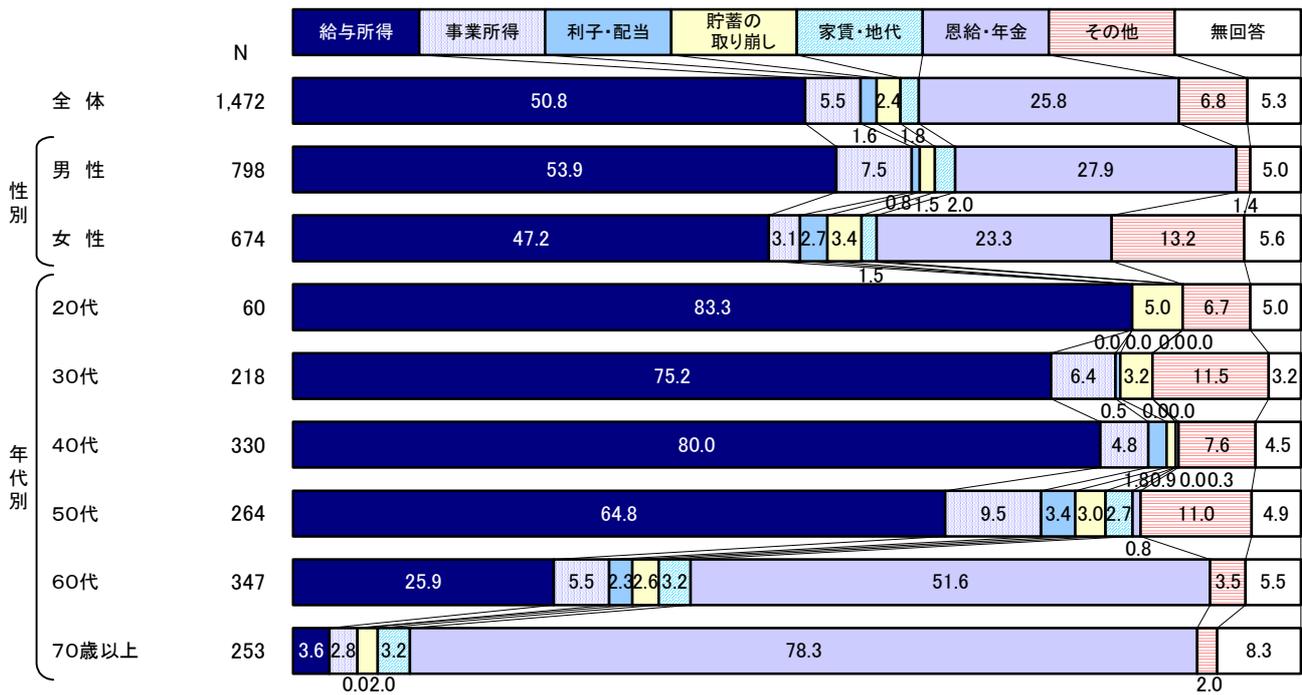
【収入源(重複回答)／基本軸2】



【主な収入源(単数回答)／時系列】

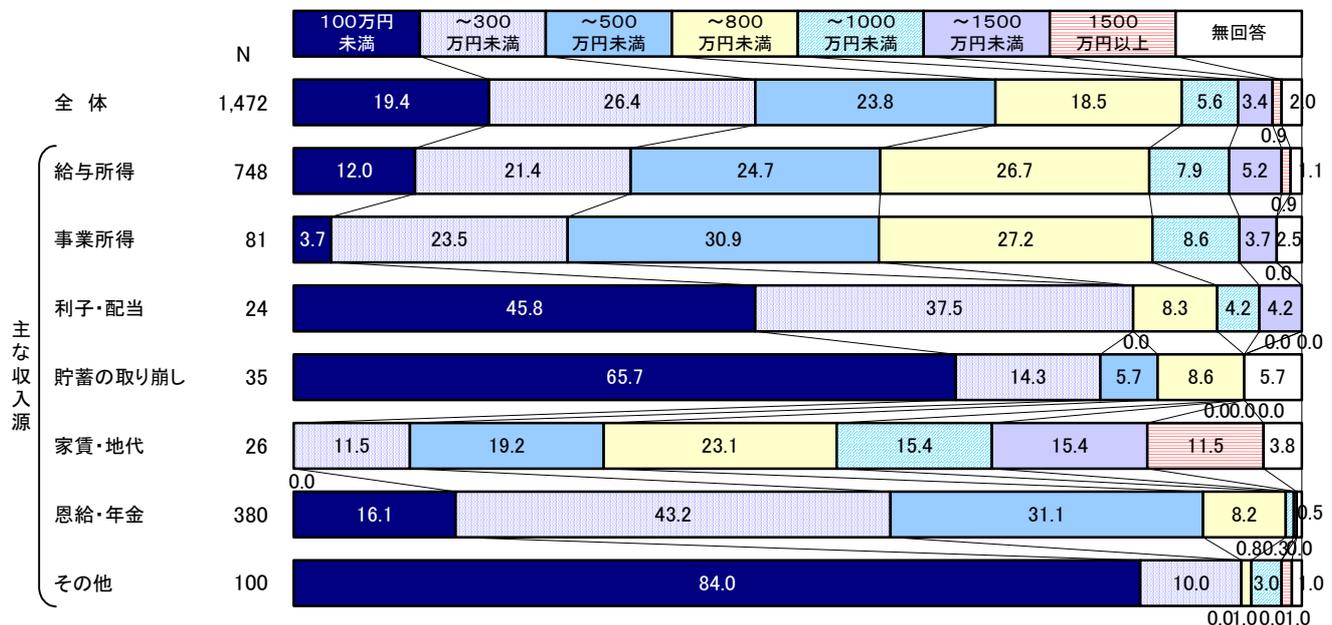


【主な収入源(単数回答)／基本軸1】

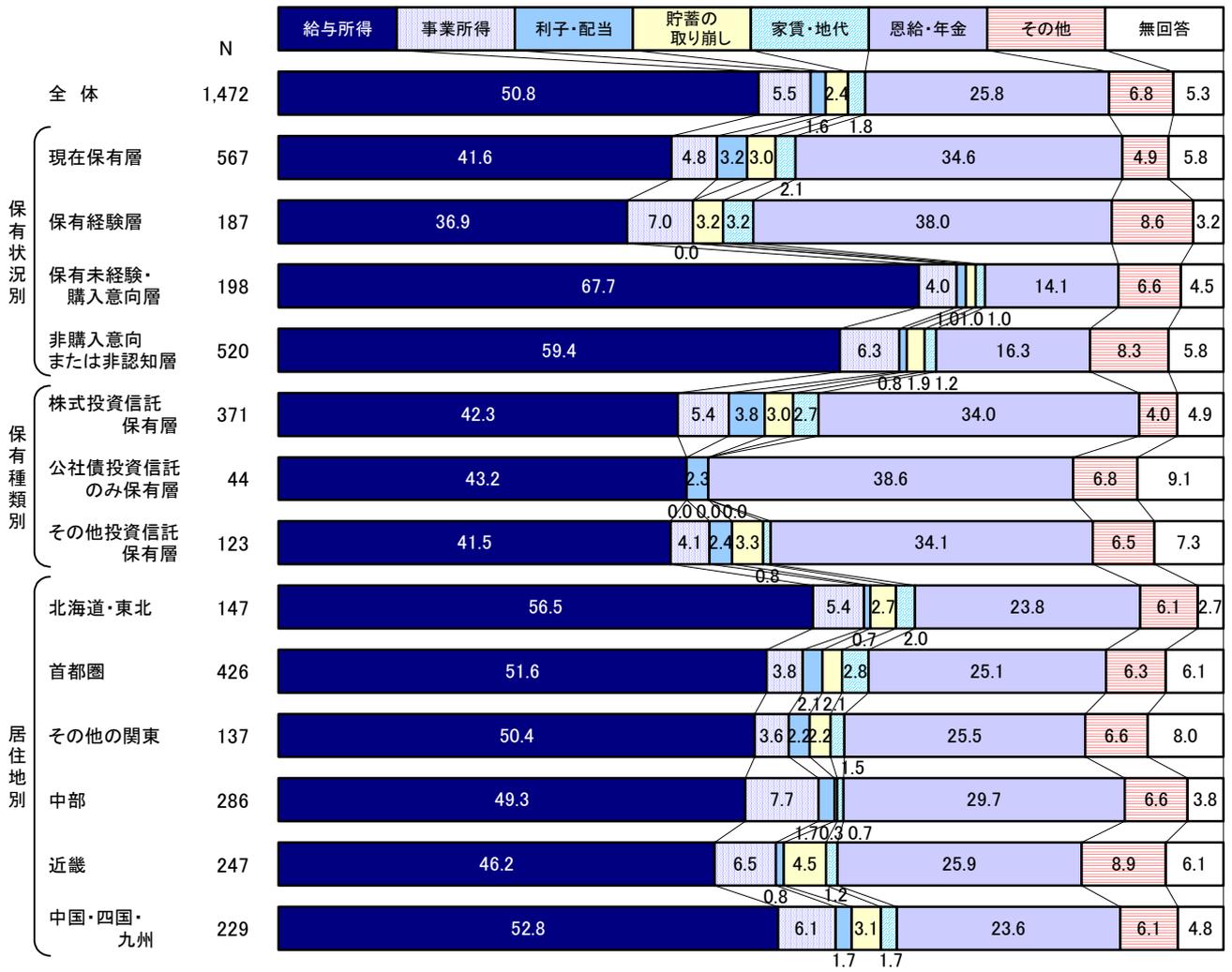


【年収(単数回答)／主な収入源】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【主な収入源(単数回答)／基本軸2】



(7) 居住地〔日本リサーチセンター保有データ〕

回答者の居住地は、「首都圏」が28.9%と最も高い。以下、「中部」が19.4%、「近畿」が16.8%、「中国・四国・九州」が15.6%、「北海道・東北」が10.0%、「その他の関東」が9.3%となっている。

時系列で見ると、大きな変化はないものの、中国・四国・九州で微増傾向がみられる。

対象者属性別では、性別や年代による差はほとんどみられない。

年収別では、「首都圏」の比率は「～300万円未満」の層ではやや低いが、「～1000万円未満」の層ではやや高い。

投資信託保有状況別では、保有経験層では「中部」の比率がやや低く、保有未経験・購入意向層では「近畿」の比率がやや低い。

投資信託保有種類別では、大きな差はみられない。

【居住地(単数回答)／時系列】

		北海道・東北	首都圏	その他の関東	中部	近畿	中国・四国・九州
	N						
平成24年	1,472	10.0	28.9	9.3	19.4	16.8	15.6
平成21年	1,475	9.1	29.2	9.6	17.6	20.0	14.6
平成18年	1,311	8.7	30.4	11.6	19.2	18.3	11.8

【居住地(単数回答)／基本軸1】

		N	北海道・東北	首都圏	その他の関東	中部	近畿	中国・四国・九州
性別	全体	1,472	10.0	28.9	9.3	19.4	16.8	15.6
	男性	798	9.9	28.4	10.3	20.1	15.9	15.4
	女性	674	10.1	29.5	8.2	18.7	17.8	15.7
年代別	20代	60	8.3	31.7	8.3	20.0	20.0	11.7
	30代	218	11.9	28.0	8.7	17.4	15.6	18.3
	40代	330	10.0	28.8	10.9	18.8	17.3	14.2
	50代	264	10.2	28.8	6.8	20.8	18.2	15.2
	60代	347	10.7	29.4	10.4	18.2	13.5	17.9
	70歳以上	253	7.5	28.9	9.1	22.1	19.4	13.0
	年収別	100万円未満	285	7.7	29.1	9.1	22.1	17.5
～300万円未満		388	12.4	21.9	9.3	18.3	19.8	18.3
～500万円未満		351	11.4	29.9	9.1	18.5	14.2	16.8
～1000万円未満		355	9.0	34.6	9.6	19.7	13.8	13.2
1000万円以上		63	4.8	33.3	11.1	22.2	22.2	6.3

【居住地(単数回答)／基本軸2】

		N	北海道・東北	首都圏	その他の関東	中部	近畿	中国・四国・九州
保有状況別	全体	1,472	10.0	28.9	9.3	19.4	16.8	15.6
	現在保有層	567	9.2	27.0	10.8	20.6	18.2	14.3
	保有経験層	187	8.6	30.5	9.6	14.4	19.8	17.1
	保有未経験・購入意向層	198	14.1	31.3	8.1	19.2	12.1	15.2
	非購入意向または非認知層	520	9.8	29.6	8.1	20.0	16.0	16.5
保有種類別	株式投資信託保有層	371	8.6	27.0	10.8	21.3	18.3	14.0
	公社債投資信託のみ保有層	44	6.8	29.5	9.1	29.5	11.4	13.6
	その他投資信託保有層	123	13.0	24.4	10.6	17.9	17.1	17.1

(8) 閲読新聞〔F6〕

回答者の閲読新聞は、「その他・地方紙」が31.3%で最も高い。次いで、「読売新聞」(25.5%)と「朝日新聞」(24.2%)が僅差で続き、以下「日本経済新聞」(15.9%)、「毎日新聞」(6.7%)、「産経新聞」(4.0%)の順となっている。なお、「その他・地方紙」の具体的な名前としては、ブロック紙・地方紙名が挙げられている。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、「日本経済新聞」閲読率は、男性(21.3%)の方が女性(9.5%)より高い。

年代別では、「読売新聞」、「朝日新聞」ともに30代以上では年代が上がるにつれ閲読率が高くなる傾向がみられる。「日本経済新聞」閲読率は50代を中心とした層でやや高い。なお、「新聞は読まない」率は20代で30.0%と特に高いが、年代が上がるにつれ低くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別では、大きな差はみられない。

居住地別では、北海道・東北と中部で「その他・地方紙」が60%を超え、中国・四国・九州でも約50%にのぼる。首都圏では「読売新聞」と「朝日新聞」の差が小さいが、その他の関東では「読売新聞」が「朝日新聞」のほぼ2倍の閲読率となっている。近畿では全体の上位3紙のみでなく、「毎日新聞」、「産経新聞」も他地域に比べるとやや高い。

【閲読新聞(重複回答)／時系列】

	N	読売新聞	朝日新聞	日本経済新聞	毎日新聞	産経新聞	証券専門誌	夕刊専門誌	フリーペーパー	その他・地方紙	新聞は読まない	無回答
平成24年	1,472	25.5	24.2	15.9	6.7	4.0	0.3	0.1	2.6	31.3	9.2	1.0
平成21年	1,475	24.7	26.0	13.0	7.1	4.2	0.3	0.3	3.2	32.1	8.7	0.5
平成18年	1,311	25.7	28.2	18.2	6.8	5.0	0.6	0.8	4.5	-	-	2.7

*平成21年では「新聞は読まない」の選択肢が追加されている

【閲読新聞(重複回答)／基本軸1】

	N	読売新聞	朝日新聞	日本経済新聞	毎日新聞	産経新聞	証券専門誌	夕刊専門誌	フリーペーパー	その他・地方紙	新聞は読まない	無回答
全体	1,472	25.5	24.2	15.9	6.7	4.0	0.3	0.1	2.6	31.3	9.2	1.0
性別												
男性	798	27.2	23.3	21.3	7.3	4.3	0.4	0.3	1.4	30.5	8.6	0.8
女性	674	23.6	25.2	9.5	6.1	3.7	0.1	0.0	4.0	32.3	9.8	1.2
年代別												
20代	60	10.0	21.7	20.0	8.3	6.7	0.0	1.7	5.0	18.3	30.0	1.7
30代	218	18.8	16.1	14.2	4.1	4.6	0.0	0.0	1.8	29.4	22.0	0.0
40代	330	25.5	20.0	13.9	4.5	1.8	0.0	0.0	3.3	34.5	12.4	0.3
50代	264	26.5	23.1	20.5	7.6	4.5	0.0	0.0	2.7	30.7	6.1	1.1
60代	347	27.4	28.2	17.9	8.4	4.6	0.6	0.0	2.9	32.3	2.9	0.9
70歳以上	253	31.6	32.8	11.5	8.3	4.3	0.8	0.4	1.2	31.2	0.8	2.4

【閲読新聞(重複回答)／基本軸2】

	N	読売新聞	朝日新聞	日本経済新聞	毎日新聞	産経新聞	証券専門誌	夕刊専門誌	フリーペーパー	その他・地方紙	新聞は読まない	無回答
全体	1,472	25.5	24.2	15.9	6.7	4.0	0.3	0.1	2.6	31.3	9.2	1.0
保有状況別												
現在保有層	567	28.7	23.8	19.0	6.3	4.1	0.4	0.2	2.8	31.6	5.3	1.2
保有経験層	187	24.1	26.7	19.3	10.2	7.5	0.0	0.0	3.7	29.4	8.0	1.1
保有未経験・購入意向層	198	22.7	26.8	12.6	6.1	2.5	0.5	0.5	3.0	34.8	10.1	0.0
非購入意向または非認知層	520	23.7	22.7	12.5	6.2	3.3	0.2	0.0	1.7	30.4	13.5	1.0
居住地別												
北海道・東北	147	12.9	14.3	15.6	2.7	2.0	0.0	0.0	0.7	63.3	6.8	1.4
首都圏	426	40.1	34.7	19.7	4.2	4.2	0.5	0.2	3.3	4.7	12.4	0.5
その他の関東	137	48.9	24.8	16.1	8.8	2.9	0.7	0.0	1.5	12.4	8.0	0.0
中部	286	8.4	16.4	13.6	4.2	3.5	0.0	0.0	0.3	64.3	5.2	1.7
近畿	247	21.1	26.7	17.0	13.4	8.9	0.4	0.4	4.5	13.4	10.9	1.2
中国・四国・九州	229	18.8	17.5	10.5	8.7	0.9	0.0	0.0	3.9	49.8	8.3	0.9

(9) 閲読雑誌〔F7〕

回答者の閲読雑誌は、「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」が17.1%で最も高く、次いで「オレンジページ」8.6%、「女性ファッション誌（MORE／VERYなど）」8.5%、「週刊ダイヤモンド／週刊東洋経済／週刊エコノミスト」8.4%の順に続く。なお、「週刊誌・月刊誌は読まない」は42.1%と半数弱を占めている。

「その他」6.9%の自由回答では、「日経ビジネス」、「プレジデント」のほか総合誌・趣味・関連雑誌などが挙げられている。

時系列でみると、「オレンジページ」の閲読率に微減傾向がみられ、「女性ファッション誌（MORE／VERYなど）」は過去2回の調査結果に比べ高くなっている。

対象者属性別では、性別でみると、男性は「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」や「週刊ダイヤモンド／週刊東洋経済／週刊エコノミスト」閲読率が高く、女性は「女性ファッション誌（MORE／VERYなど）」、「オレンジページ」、「レタスクラブ」、「NHKきょうの料理」など女性向けの雑誌が高い。

年代別では、「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」、「文芸春秋」は年代が上がるにつれ閲読率が高くなる傾向がみられる。一方、「女性ファッション誌（MORE／VERYなど）」は若年層ほど高く、「オレンジページ」、「レタスクラブ」は30代～50代を中心とした層でやや高い。なお、「週刊誌・月刊誌は読まない」率は30代を中心とした若年層では約50%と高いが、年代が上がるにつれ低くなり、70歳以上では33.2%にとどまる。

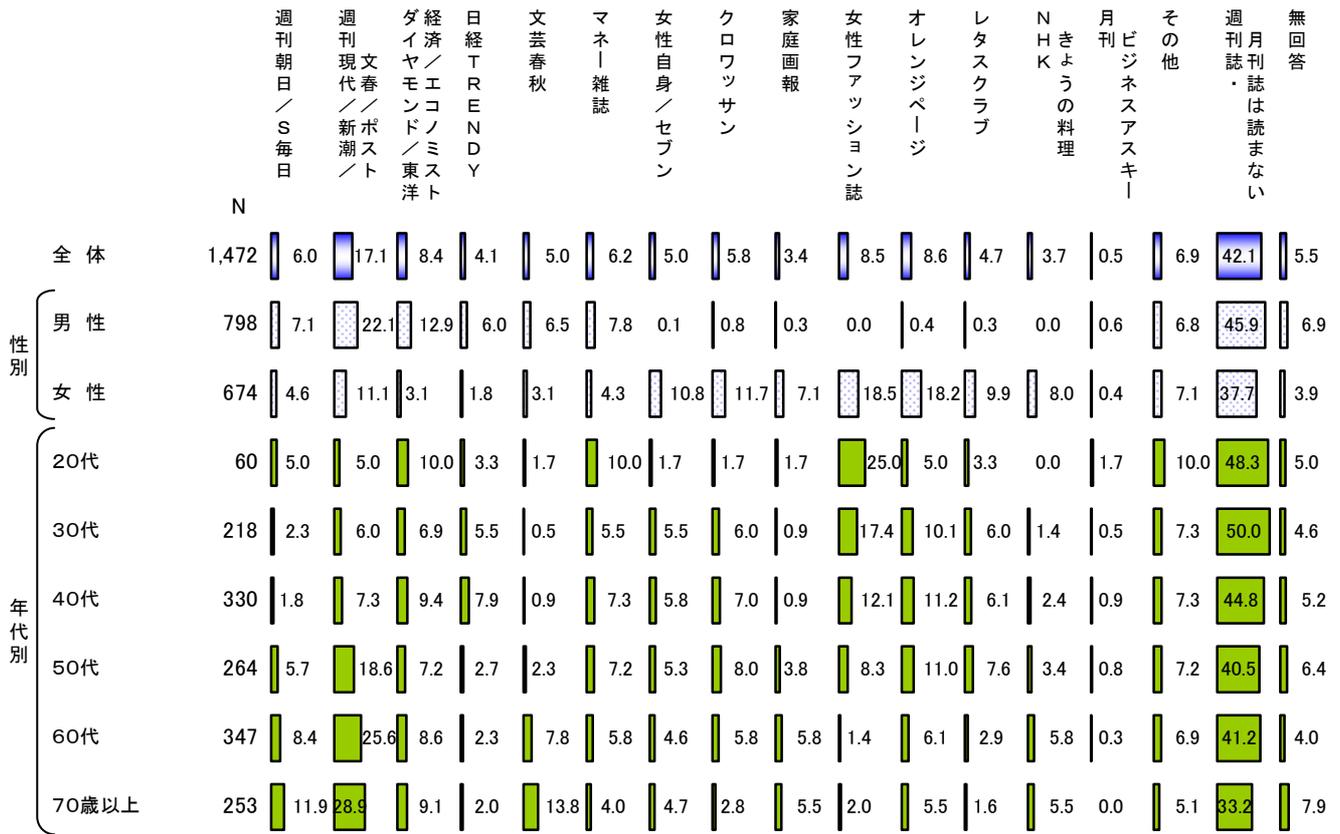
投資信託保有状況別にみると、保有経験層では「週刊現代／週刊新潮／週刊文春／週刊ポスト」閲読率が25.1%とやや高く、「週刊誌・月刊誌は読まない」率は31.0%と低い。

【閲読雑誌(重複回答)／時系列】

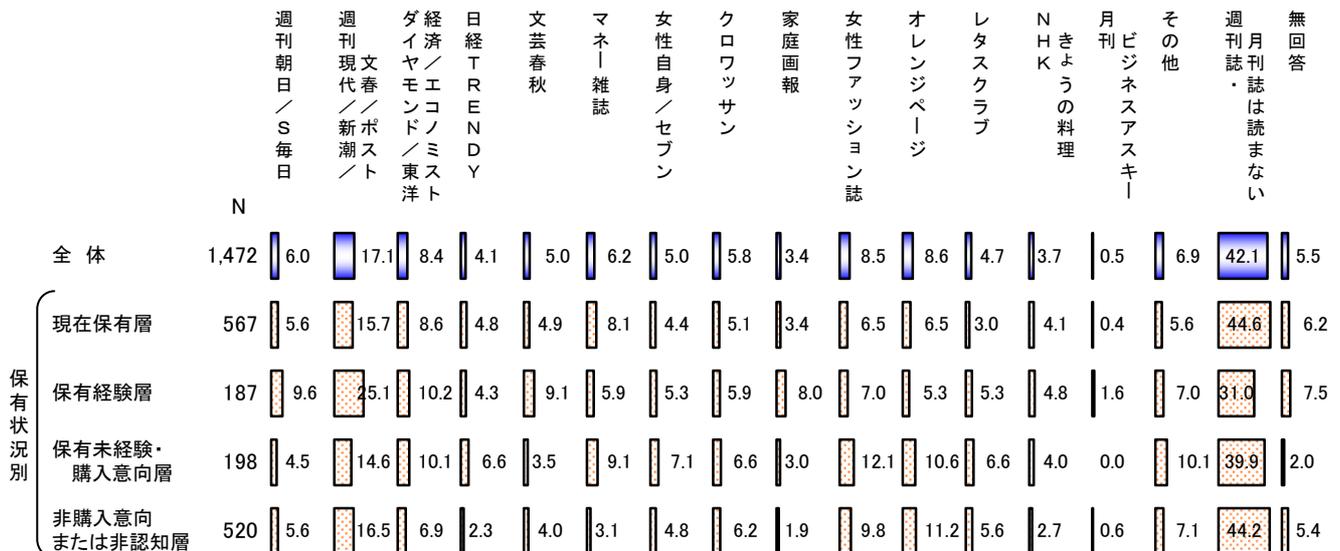
	週刊朝日／サンデー毎日	週刊現代／新潮／ポスト	文芸春秋	日経RENDY	ダイヤモンド／東洋経済	マネー雑誌	女性自身／セブン	クロワッサン／ESSE	家庭画報／婦人画報	女性ファッション誌	オレンジページ	レタスクラブ	NHKきょうの料理	月刊ビジネスアスキー	その他	週刊誌・月刊誌は読まない	無回答	
平成24年	1,472	6.0	17.1	8.4	4.1	5.0	6.2	5.0	5.8	3.4	8.5	8.6	4.7	3.7	0.5	6.9	42.1	5.5
平成21年	1,475	5.5	15.7	5.6	2.8	5.6	2.6	5.2	3.1	2.7	3.1	9.5	5.4	5.2	0.7	8.9	45.6	5.5
平成18年	1,311	10.5	21.7	6.9	5.0	6.9	4.9	8.7	4.7	5.9	3.9	13.4	7.9	6.1	1.6	17.4	-	26.1

*平成18年調査では「週刊誌・月刊誌は読まない」の選択肢がない点に注意が必要
 また、休刊・誌名変更等に伴って以下の選択肢が変更になっている点に注意が必要
 「週刊朝日／サンデー毎日／YOMIURI WEEKLY」→「週刊朝日／サンデー毎日」
 「家庭画報／主婦の友」→「家庭画報」
 「Yahoo! Internet Guide／月刊ASCII」→「月刊ビジネスアスキー」
 「クロワッサン」→「クロワッサン／ESSE」
 「VERY／ESSE」→「女性ファッション誌（MORE／VERYなど）」

【閲読雑誌(重複回答)／基本軸1】



【閲読雑誌(重複回答)／基本軸2】



(10) よく利用するインターネットサイト〔F8〕

回答者がよく利用するインターネットサイトは、「Yahoo! JAPAN」が64.7%で最も高く、次いで「Google」(43.0%)が続く。「インターネットショッピングサイト」も25.6%と比較的高い。「インターネットサイトは利用しない」は13.2%のみである。

「その他」(2.8%)の自由回答では、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)サイトなどが挙げられている。

平成21年の調査結果と比べると、「Google」は4.8ポイント、「インターネットショッピングサイト」は7.8ポイント高くなっており、「インターネットサイトを利用しない」率は7.3ポイント低くなっている。

対象者属性別では、性別でみると、男性の方が「Yahoo! JAPAN」、「Google」、「新聞社のニュースサイト」、「価格比較サイト」ともに利用率が高いが、「インターネットショッピングサイト」の利用率には大きな性差はみられない。一方、女性の方が「個人のブログ/クチコミ/ツイッター」の利用率は高い。なお、「インターネットサイトは利用していない」率も男性(10.4%)より女性(16.6%)の方が高い。

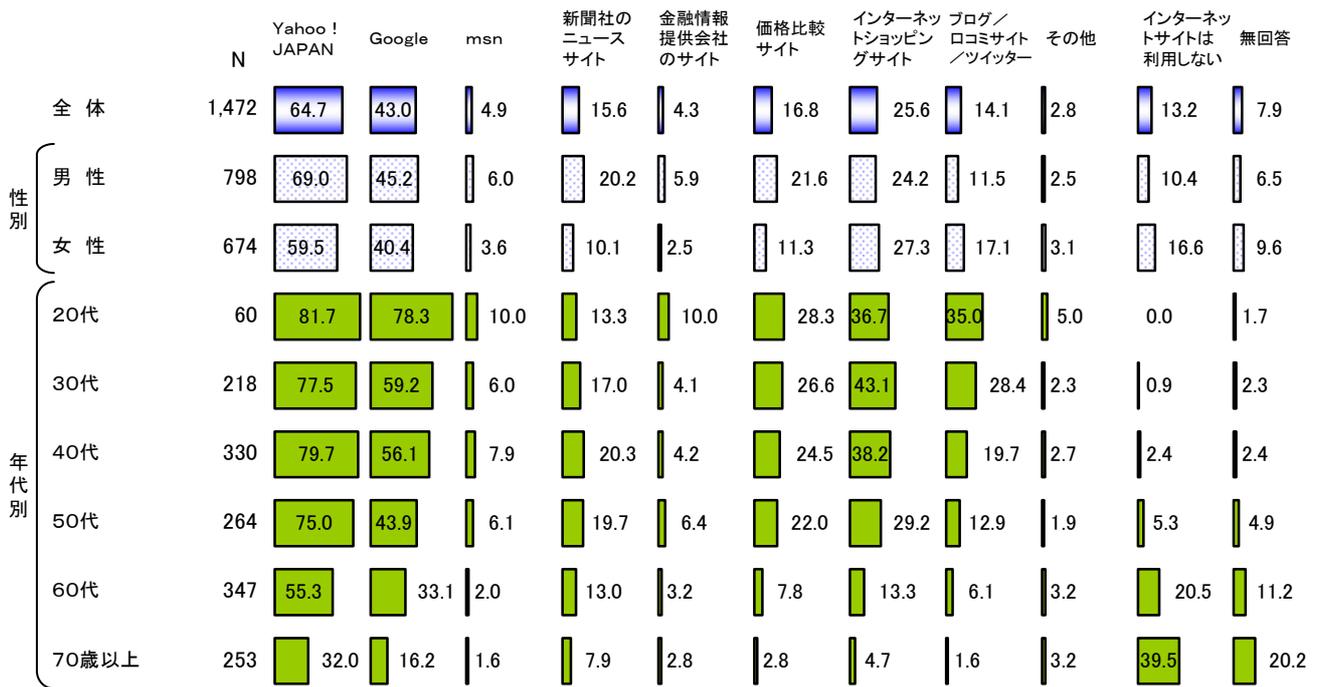
年代別では、「インターネットサイトは利用しない」率は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、この影響もあって、多くのサイトでは50代以下の利用率が高い。

投資信託保有状況別では、保有未経験・購入意向層は「インターネットサイトは利用しない」が4.0%と低く、「Yahoo! JAPAN」、「Google」、「インターネットショッピングサイト」の利用率も他の層に比べ高い。これは、保有未経験・購入意向層は若年層で多い、という年代層の差の影響が出ているとみられる。

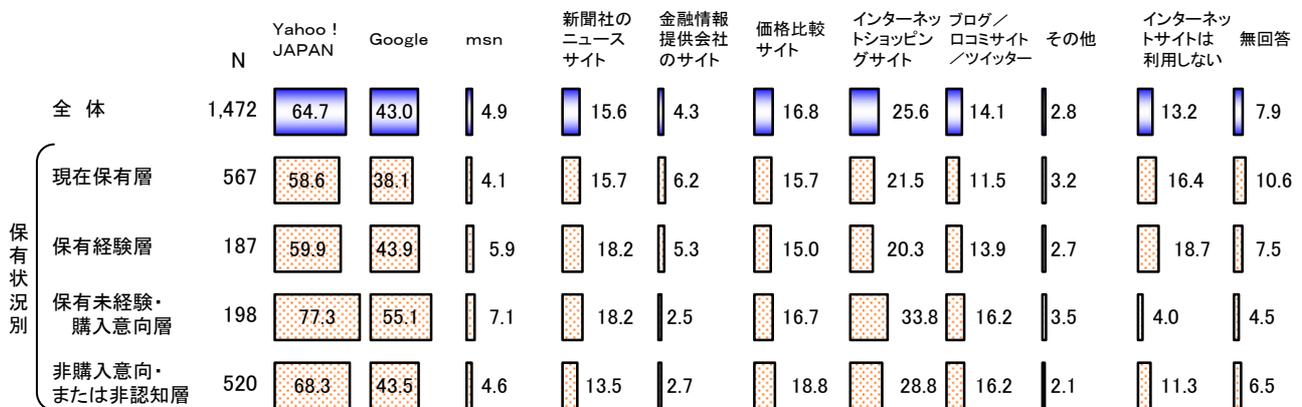
【よく利用するインターネットサイト(重複回答)／時系列】

	N	Yahoo! JAPAN	Google	msn	新聞社の ニュース サイト	金融情報 提供会社 のサイト	価格比較 サイト	インターネッ トショッピン グサイト	ブログ/ 口コミサイト /ツイッター	その他	インターネッ トサイトは 利用しない	無回答
平成24年	1,472	64.7	43.0	4.9	15.6	4.3	16.8	25.6	14.1	2.8	13.2	7.9
平成21年	1,475	64.3	38.2	5.6	12.1	3.1	13.7	17.8	12.5	2.5	20.5	4.3

【よく利用するインターネットサイト(重複回答)／基本軸1】



【よく利用するインターネットサイト(重複回答)／基本軸2】



【参考：保有状況別 年齢構成比】

